

# U.S. Indicators

発表日: 2019年7月17日(水)

## 米国 19年6月小売売上高も好調

～4-6月期の実質個人消費は前期比年率+4%台に加速し経済成長を牽引～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部  
主任エコノミスト 桂畑 誠治 (Tel: 03-5221-5001)

### 小売・飲食サービス売上高 (Retail and Food Services Sales)

			耐久財関連 (*1)				非耐久財関連 (*2)			
		除く車		自動車	家具	家電		衣料品	ガソリン	
18/07	+0.8	(+6.6)	+0.9	+0.1	+0.3	+0.3	▲0.7	+0.9	+1.8	+0.9
18/08	▲0.1	(+6.3)	+0.0	▲0.6	▲0.6	▲1.0	+0.3	+0.1	▲2.9	+0.8
18/09	▲0.3	(+3.9)	▲0.3	▲0.2	▲0.2	+0.6	▲1.8	▲0.0	+0.3	▲0.8
18/10	+1.2	(+4.8)	+1.1	+1.2	+1.4	▲0.7	+0.4	+1.3	+1.3	+4.8
18/11	▲0.1	(+4.0)	▲0.3	+0.0	+0.8	▲0.2	▲1.0	+0.0	+0.2	▲4.1
18/12	▲2.0	(+1.4)	▲2.6	+0.3	+0.4	▲0.9	▲1.3	▲3.6	▲1.0	▲6.1
19/01	+1.5	(+2.6)	+2.4	+0.1	▲2.0	▲0.4	+0.8	+2.5	▲1.5	▲1.5
19/02	▲0.5	(+1.9)	▲0.6	▲1.7	▲0.3	+0.6	▲2.0	▲0.2	▲1.5	+3.5
19/03	+1.8	(+3.8)	+1.4	+2.6	+3.4	+1.4	+0.8	+1.6	+2.1	+3.3
19/04	+0.4	(+3.8)	+0.6	▲0.5	▲0.4	+0.8	▲1.1	+0.7	▲0.2	+1.6
19/05	+0.4	(+2.9)	+0.4	+0.2	+0.7	▲0.1	+0.8	+0.4	▲0.2	▲0.8
19/06	+0.4	(+3.4)	+0.4	+0.6	+0.7	+0.5	▲0.3	+0.2	+0.5	▲2.8

(注) 数字は季調済前月比。但し、( )内は前年同月比(未季調)。

\*1:耐久財関連は、自動車・家具・家電・建材関連の売上の合計。

\*2:非耐久財関連は、小売売上高の合計から、耐久財関連を除いたもの。

19年6月の小売・飲食サービス売上高(速報値、季節調整値)は、前月比+0.4%(前月同+0.4%)と市場予想中央値の同+0.2%(筆者予想同+0.3%)を上回った。また、変動の大きい自動車を除く小売・飲食サービス売上高は、前月比+0.4%(前月同+0.4%)と市場予想の同+0.1%(筆者予想同+0.4%)を大幅に上回った。

小売売上高の基調を判断するうえで重要なコア小売売上高(自動車・ガソリン・建材を除く小売・飲食サービス売上高)は、前月比+0.7%(前月同+0.7%)と高い伸びを維持したうえで、4、5月合計で0.4%p上方修正された。3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率では、6月のコア小売売上高は+8.0%と、04年3月の+14.3%以来の高い伸びとなった前月(+9.7%)から低下したものの、拡大モメンタムは強いままである。また、4-6月期に前期比年率+8.0%と1-3月期の前期比年率+3.7%から大幅に加速しており、小売売上高の好調さが確認された。

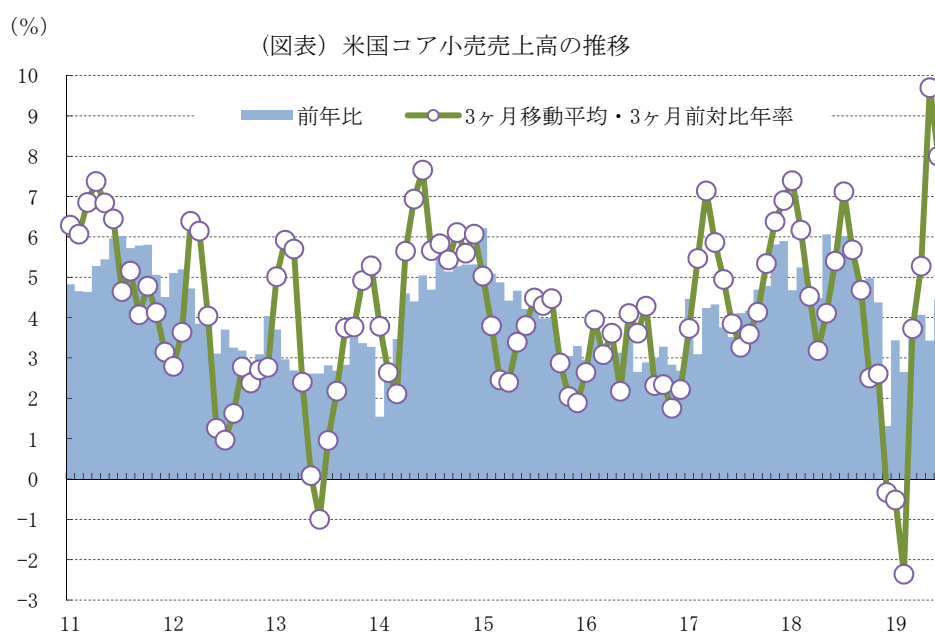
実質個人消費は、1-3月期に政府機関の一部閉鎖、悪天候などの一時的な要因によって前期比年率+0.9%に減速したものの、4-6月期に雇用・所得の拡大、資産価格の上昇が続くなか一時的な要因の剥落によって前期比年率+4.4%程度と拡大ペースを大幅に速めたと予想する。

6月の小売売上高は、ガソリン価格の下落による価格面での下押し圧力の強まるなか、雇用・所得の増加傾向、株価・不動産等の資産残高の増加、消費者マインドの高水準での安定などに支えられ、堅調さを維持した。

業態別では、家電が減少に転じたほか、ガソリンスタンドが減少幅を拡大した。また、スポーツ用品・本・趣味用品が前月と変わらずとなった。一方、家具、建設資材、衣料品が増加に転じたうえで、悲観的な見方が強い自動車・同部品、通信販売が前月と同様の高い伸びとなった。また、食品・飲料が加速し、

薬局、その他小売、飲食店は鈍化したが高い伸びを維持した。さらに、百貨店など一般小売は小幅増加を続けた。

6月の小売売上高の前月比(+0.43%)の寄与度をみると、押し下げ寄与となった業態は、ガソリンスタンド(▲0.22%)だけとなった。一方、押し上げ寄与となった業態では、通信販売が+0.21%、自動車・同部品が+0.15%と大幅な押し上げ要因となった。また、飲食店が+0.11%、食品・飲料が+0.06%、百貨店を含む一般小売が+0.03%、薬局が+0.03%、建設資材が+0.03%、衣料品は+0.02%、その他小売りが+0.01%、家具+0.01%と続いた。家電、スポーツ用品・本・趣味用品は0.00%となった。



(出所) 米商務省

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。